城ながら國主の命ハ背きがたし。依て今更足下へ返しがたしと云はせて使者驚ひて立返り斯くなりと告けれバ。左京大に驚き憤りし。我石山の上より金銀兵粮を若干貯へ築かせし城郭を彼ハ賊に奪れ棄てまじとこそ安からね。先ず取返さで置べからずと即時に軍兵を進発し長島に向ふて攻寄門徒は勢ひも聚集めて。都合二千余人を率ひ鯏江に推寄攻れども。素一揆が此城を築く始より長嶋桑名の敵兵を防ぐ便利の縄張なる小摠なりし城なれバ。彼翻勢の二三四千に推寄るとも勿ゝ拂まん況進兵多くハ皆門徒一揆の未練武者。進退さらに調はざるを。瀧川儀太夫ハ淀んで。蓋しく防戦しけるにより進兵大半戦死を左京亮實宗岩がたなし悲まど更に其甲斐なく。力及ばで退陣せり。是に因て長嶋勢次第に鯏江の有と成り日々盛に勢ひ強ふて。今ハ全く伊勢の驕柄大丈夫に成しかハ信長大に頴悦し給ひ。斯ては上洛なさんものと。永禄四年秋八月。供奉ハ勝く八十余人熱田より船を出され。折に朧る帆の力に棹子巣さへもを労せず。桑名にこそ着岸しけれ

繪本豊臣勲功記二編巻之一終